

平成 27 年 3 月 北秋田市長定例記者会見

平成 27 年 3 月 23 日（月）10 時 00 分
市役所本庁舎 大会議室

1. 住民票等宅配サービスについて
2. 空き家バンク制度及び移住者住宅支援事業について
3. 地域おこし協力隊の募集について
4. 秋田内陸線乗車促進事業について
5. その他

1. 住民票等宅配サービスについて

新年度から、市民サービスの向上を目的に、庁舎窓口にいらっしゃることが困難な高齢者や体が不自由な方、生後4ヶ月までの子どもを持つ方などで、ご家族による代理申請が困難であると認められた方を対象とした「住民票等宅配サービス」を実施いたします。

これは、住民票や戸籍附票、所得証明書などの税証明書を、電話による予約によって職員がご自宅までお届けするサービスですが、申請手続きに制約がある戸籍謄本や印鑑証明は宅配対象から除かれます。

詳細につきましては、3月号の広報やホームページに掲載の他、自治会等のご協力を頂きながら周知してまいりたいと考えております、市といたしましては、今後益々進むと予想されている高齢化社会や核家族社会へ適応した有効なサービスとして位置づけているところであります。

2. 空き家バンク制度及び移住者住宅支援事業について

4月から、移住定住促進施策の一環として、「空き家バンク制度」と「移住者住宅支援事業」が開始されますのでご案内いたします。

「空き家バンク制度」は、市内にある空き家など、賃貸や売却を希望する所有者からの登録申請を頂き、物件情報を一元化して公開することで、利用希望者とのマッチングを図るものであり、市外からの移住定住の促進や地域活性化につながるものと大いに期待をしているものであります。

まずは、物件所有者による登録申請を開始することとしており、市やJOIN（一般社団法人移住交流推進機構）、秋田県移住定住総合支援センターのホームページをはじめ、広報5月号や5月発送予定の固定資産税納付書にも資料を同封することで、制度の周知を図り、登録物件が決定次第、随時ホームページでの情報提供を行っていく予定となっております。

また、「移住者住宅支援事業」は、定住の目的で市外から転入するために住宅を購入・建築した経費の2/10、上限65万円を助成するものであります。

3月定例会でも申し上げましたが、中古住宅の購入を例にいたしますと、県や市のリフォーム補助金の上限が合計35万円ですので、それらを併用することで最大100万円の助成を受けることができます。

その他、「奨学金返還支援制度」なども、準備が整い次第実施していく予定となっており、来年度策定予定の北秋田市版地域創生戦略を見据えながら、引き続き取り組んでまいりたいと考えております。

3. 「北秋田市地域おこし協力隊」の募集について

この度、北秋田市地域おこし協力隊を募集することといたしました。

活動内容といたしましては、観光情報発信や観光イベントの実施、地元特産品PRや販路拡大、交流・体験メニューの企画提案、森吉山観光振興プロジェクトの実施支援など当市の観光振興にかかわる活動を行って頂きたいと考えており、20歳以上35歳以下の方を2名募集いたします。

先ほどの空き家バンク制度などと同様に、市やJOIN（一般社団法人移住交流推進機構）や秋田県移住定住総合支援センターのホームページなどの関係機関で周知を行っていくこととなりますが、当市としても初の試みでありますことから、新たな視点で地域を見つめ、地域の方々と力を合わせ、活力あふれる地域づくり活動に積極的に取り組んで頂ける意欲ある方々からのたくさんの応募を期待しております。

4. 秋田内陸線乗車促進事業について

3月定例会での補正予算にて議決を頂いた地方創生関連の「消費喚起・生活支援型」事業のひとつであります「秋田内陸線乗車促進事業」が4月から開始されますのでご案内いたします。

この事業は、団体旅行に係る運賃と貸切車両料金への助成となっております、団体旅行につきましては、対象を①団体の代表者が市民②団体の所在地が北秋田市③5名以上の市民を含む団体 のいずれかに当てはまる8名以上の団体としており、運賃の1/2・最大片道500円・往復1000円の助成を行い、貸切車両につきましては、普通車両を除く貸切車両の料金の1/2を助成するものであります。

申込は、団体旅行につきましては市内の有人駅（鷹巣、合川、米内沢、阿仁前田、阿仁合）で、貸切車両につきましては会社か内陸線旅行センターで行って頂くことになり、それぞれ、旅行の2週間前までにお申込み頂くことで、その場で助成金額を差し引いた金額での手続きを行うことができます。

また、商工観光課が事務局となっております秋田内陸線・奥羽北線沿線連絡協議会が作成しております「秋田内陸線の旅」の2015年春夏号が完成いたしましたのでご紹介いたします。

お手元にもお配りしておりますが、今回のパンフレットの特徴は、山あいを走る都会にはない田舎ならではのシンボリックな内陸線の写真をメインとしており、パンフレットスタンドに並んだ際に、他の観光地パンフレットと差別化を図るために、タイトルを見やすくするなど表紙のデザインを一新したことや、中面の一部に、スマートフォンやタブレット端末を使って動画が楽しめるAR動画配信を導入し、写真だけでは伝わりにくい情報を紹介できるようにしたこととあります。

このパンフレットは、首都圏のJR東日本各駅を中心に配置する予定となっておりますので、これまで以上に、秋田内陸線の利用促進や沿線観光地への誘客につなげてまいりたいと考えております。